

<研究主題>

主体的に問い続け、他者と協働しながら追究する児童の育成

～**気付きや問いのつながりを重視した単元構成・授業づくり**と**協働的に考えを深める学習活動**の工夫を通して～

Ⅰ 主題設定の理由

昨年度、第26回広島県小学校社会科教育研究大会の開催校となり、研究主題「社会を見つめ、よりよい未来を共創する社会科授業の創造～主体的に問い続け、他者と協働しながら追究する児童を目指して～」のもと、児童が社会科事象に対して、社会的な見方・考え方を働かせ、問い続けるとともに、根拠をもとに他者と対話しながら、最適解や納得解を追究する社会科の授業づくりに取り組んできた。

また、相手の発言を受け止めて反応したり、根拠をもとに対話したりする姿は、社会科だけで育成できるものではないため、安心して対話できる学級経営をベースに、楽しみながら対話する機会を設けたり、対話することで学びが深まる体験を取り入れたりするなど、他教科等日常における活動も大切にしてきた。

具体的には、1つ目の研究の視点を「**問いを重視した単元計画の工夫**」とし、「問いと知識の構造図」を作成し、学習問題や具体的な問いを構造化することで、児童が立てた問いをどのようにつなげ、深めていくのかという**単元構想のイメージを明確**にした。その中で、社会科事象との出合わせ方や単元の終末における実社会につなげる問いを工夫したり、考えを深めていく過程に「**選択**」と「**共有**」の場を取り入れたりすることで、自ら問いを立て、追究する児童の育成に取り組んできた。また、2つ目の研究の視点を「**協働的に考えを深める学習活動の工夫**」とし、進んで**対話したくなる学習環境づくり**や**社会的な見方・考え方を働かせた表現活動の工夫**を行うことで、根拠に基づいた他者との対話を通して、自分の考えを深め、最適解や納得解を追究し続ける児童の育成にも取り組んだ。

その結果、社会的事象を自分ごととしてとらえ、自分で立てた問いに対して、解決への意欲をもって主体的に追究しようとする児童が育ってきた。また、児童が自分の問いにこだわって追究する「**選択**」の場面を適切に設けることで、「**自分の考えを伝えたい**」「**友だちの考えを聞きたい**」など対話への意欲が生まれ、当事者意識をもって話し合いに参加することができるようになってきている。

さらに、対話タイムや反応の型の提示などの取組により、楽しみながら対話したり、話を受け止めてもらえる体験が増えたりすることで、対話の量と質が向上し、相手の発言を受け止めて反応するなど、考えを交流することはできるようになった。しかし、自分の考えの根拠や理由が明確にはできていなかったり、自分の考えを伝えるのみで、友だちの考えを踏まえて、自分の考えを更新したり、さらなる最適解や納得解を追究し続けたりする目指す姿にまでは至っていない。また、いろいろな資料を提示することで読み取ること自体に終始し、探究にまで至っていないのではないかとと思われる場面もあった。根拠や理由を明確にさせるためには、資料の読み取り方や関連付け方などの資料活用能力を児童に身に付けさせるとともに、教師側の資料の精選などの情報の焦点化も必要であると考えた。

そこで、今年度は2年間の社会科における研究を継続するとともに、低学年からの取組とのつながりを踏まえ、発展的な研究とするために、**生活科も研究対象とし**、児童が見方・考え方を働かせ、気付きや問いをつなげながら問い続け、**気付き**や根拠をもとに他者と対話しながら、気付きを深めたり、最適解や納

昨年度の研究

研究の成果と課題

得解を追究したりする探究的な授業づくりに取り組む。社会科においては、2年間の研究で積み上げた単元計画を基にして、学習のねらいに直結する資料などを精選し直し、比較や分類、関連付けなどが可能なように構造化して提示するなどの改善を図りながら、日常的に実践できるような授業の在り方を探っていきたい。

また、児童同士の発言をつなぎ、深い学びへ導くための発問や切り返しなど、教師の対話のファシリテーション能力を高め、児童や学級集団の学びを深める対話のモデルとしての位置付けを図る。「いいね」「そうだね」という同調のみではなく、批判的・創造的な思考で新たな学びが生み出せる対話を目指して取り組んでいく。さらに、児童自身に学びの変容を自覚させるために、ポートフォリオやICTなどを活用して振り返りを行い、学びを可視化する取組も有効であると考えます。

そして、昨年度同様、相手の発言を受け止めて反応したり、根拠をもとに対話したりする姿は、社会科・生活科だけで育成できるものではないということを再確認し、自分の考えを安心して話せる「話しやすい雰囲気醸成」や聞き手の反応・問い返しを大切にする「個を認め合う集団づくり」など安心感のある学級経営を土台とし、教科等や学年を越えて継続的な指導を行っていききたい。

2 研究仮説

生活科・社会科の単元・授業づくりで、「気付きや問いのつながり」を重視した単元計画の工夫」「協働的に考えを深める学習活動の工夫」を行うことで、主体的に問い続け（事象に対して、見方・考え方を働かせ、気付きや問いをつながげながら追究し続け）他者と協働しながら追究する（気付きや根拠をもとに他者と対話しながら、学びを深めたり最適解や納得解を追究したりする）児童が育つだろう。

3 研究の視点

(1) 気付きや問いのつながりを重視した単元構成・授業づくりの工夫

- 学習問題と具体の気付き・問いの構造化（「気付き・問いと知識の構造図」）
 - ・ 追究の意欲と見通しがもてる「人・もの・こと」との出会わせ方の工夫
 - ・ 選択と共有による深い学びの展開
 - ・ 社会を自分との関わりで捉える問いの工夫
- 気付きや問いの質を高める授業展開
 - ・ 「やってみたい」「知りたい」と思える体験活動・学習活動の設定や資料の提示
 - ・ 情報・資料の精選や資料活用能力の育成
 - ・ 見方・考え方を働かせながら比較・分類・関連付けして考えを構築させる指導

NEW!

(2) 協働的に考えを深める学習活動の工夫

- 安心感のある進んで対話したくなる学習環境づくり
 - ・ 話しやすい雰囲気の醸成（聞き手の反応や問い返し・個を認め合う集団づくり）
 - ・ 目的に応じた対話の場の設定（ペア・グループ・全体などの交流）
- 教科の見方・考え方を働かせた表現活動の工夫
 - ・ 気付きや根拠を明確にして考えを説明させる指導
 - ・ 気付きを深めたり考えを更新したりして、新たな価値を生み出す対話の指導
 - ・ 振り返りによる自己の気付きや学びの可視化

NEW!

4 研究構想図

学校教育目標

自ら学び みんなで高まる 児童の育成

探究する力
伝え合う力
人とかわる力
健康に過ごす力

★めざす子供の姿★

- 【探究する力】問題解決に向けて問い続けながら深く学ぶことができる
- 【伝え合う力】相手の意見を受け止め、自分の考えを自分の言葉で表現できる
- 【人とかわる力】協働することの良さや難しさを理解し、工夫できる
- 【健康に過ごす力】健康や安全を理解して、学校生活を送ることができる

研究テーマ

主体的に問い続け、他者と協働しながら追究する児童の育成を目指して
～気付きや問いのつながりを重視した単元構成・授業づくりと
協働的な考えを深める学習活動の工夫を通して～

研究テーマに基づく目指す児童像

- 「主体的に問い続け、他者と協働しながら追究する児童」
- ・「人・もの・こと」について、見方・考え方を働かせ、問いを立てて
追究し続ける児童
 - ・気付きや根拠をもとに他者と対話しながら、最適解や納得解を追究する児童

研究仮説

生活科・社会科の単元・授業づくりで、「気付きや問いのつながりを重視した単元構成・授業づくりの工夫」「協働的に考えを深める学習活動の工夫」を行うことで、主体的に問い続け、他者と協働しながら追究する児童が育つだろう。

研究の視点①

気付きや問いのつながりを重視した
単元構成・授業づくりの工夫

研究の視点②

協働的に考えを深める学習活動の工夫

安心して対話できる学級経営

5 検証計画(5月・11月・2月) 【令和8年度アンケート項目】

学校評価アンケートや研究に関わるアンケート(教職員・児童)や児童の具体の姿や成果物の見取りから検証する。

教職員: 3～6年

- ① 社会科で、追究の意欲と見通しがもてる社会科事象(人・もの・こと)との出合わせ方をしています。
- ② 児童が選択したり、お互いの考えを共有したりする場面を設定しています。
- ③ よりよい社会について考えるような実社会につながる問いを工夫しています。
- ④ 聞き手の反応や問い返し、個を認め合う集団作りなどの取組を通して、話しやすい雰囲気醸成しています。
- ⑤ ペア、グループ、全体交流など目的に合わせた対話の場を設定しています。
- ⑥ 資料などを基に、根拠や理由を明確にして考えを説明するように指導しています。
- ⑦ 児童の学びが深まるように、教師が問い返ししたり、児童同士の対話を促したりして、工夫をしています。
- ⑧ 児童自身にまとめ活動をさせたり、自分の学習を振り返らせたりするための工夫をしています。
- ⑨ 児童に提示する資料や体験を精選しながら、授業で提示している。
- ⑩ 児童に提示した資料を比較・分類・関連付けして、考えを深めさせている。
- ⑪ 児童は、疑問に思ったことに対して予想を立て、実際に調べたり見学したりインタビューしたり体験したりしながら、追究し続けています。
- ⑫ 児童は、他の児童と対話しながら、「なるほど、そうのことか。」「友だちの意見を聞いて、よりよい考えに気づいた。」など自分の価値観や考えを深めています。

1・2年

- ① 生活科で、学びの意欲と見通しがもてる対象との出合わせ方をしています。
- ② 児童が選択したり、お互いの考えを共有したりする場面を設定しています。
- ③ 児童の身の回りの生活につながる気付きが出てくるように工夫しています。
- ④ 聞き手の反応や問い返し、個を認め合う集団作りなどの取組を通して、話しやすい雰囲気醸成しています。
- ⑤ ペア、グループ、全体交流など目的に合わせた対話の場を設定しています。
- ⑥ 作成物などを基に、根拠や理由を明確にして考えを説明するように指導しています。
- ⑦ 児童の学びが深まるように、教師が問い返ししたり、児童同士の対話を促したりして、工夫をしています。
- ⑧ 児童自身にまとめ活動をさせたり、自分の学習を振り返らせたりするための工夫をしています。
- ⑨ 児童に提示する対象を精選しながら、授業で提示している。
- ⑩ 児童に提示した対象を、見つける・比べる・たとえる・試す・見通す・工夫するといった思考・表現活動を促して、気付きの質を高めさせている。
- ⑪ 児童は、疑問に思ったことに対して見通しをもって、実際に調べたり見学したりインタビューしたり体験したりしながら、追究し続けています。
- ⑫ 児童は、他の児童と対話しながら、「なるほど、そうのことか。」「友だちの意見を聞いて、よりよい考えに気づいた。」など自分の価値観や考えを深めています。

児童:3～6年

- ① 社会科の授業を楽しみにしています。
- ② 社会科の授業を通して、社会のことをもっと知りたいと思います。
- ③ 社会科で学習することで、よりよい社会について考えることができますと思います。
- ④ 授業では、「なぜだろう」「どのようになっているのだろう」「どうすべきだろう」など問いを立てながら学んでいます。(学校評価①)
- ⑤ 自分で考えた問いに対して、解決方法を選びながら調べたり、見学したり、インタビューしたりして、解決しようとしています。
- ⑥ 問いに対する自分の考えをもち、友だちと話し合うことで、よりよい考えを見つけ、解決しようとしています。
- ⑦ 資料などから分かったことを根拠や理由にして、自分の考えを説明しています。
- ⑧ 学んだことを自分の言葉でまとめたり、振り返ったりして、考えを深めることができます。(学校評価②)
- ⑨ あいづちや言葉で、友だちの考えに反応したり、聞き返したりしながら話し合っています。
- ⑩ 友だちと話し合うことで、「なるほど」と思ったり、よりよい考えに気づいたりするなど、自分の考えを深めることができます。(学校評価③)

1・2年

- ① せいかつかのじゅぎょうを、たのしみにしています。
- ② せいかつかのじゅぎょうをすると、もっとしりたいことが、ふえてきます。
- ③ せいかつかをまなぶと、みのまわりのことや、じぶんのことを、もっとよくしていきたいと、おもいます。
- ④ じゅぎょうでは、「なぜだろう」「どのようになっているのだろう」など、かんがえながら学(まな)んでいます。(学校評価①)
- ⑤ ぎもんに思(おも)ったことについて、しらべたり、友(とも)だちとはなしあったりして、かいけつしようとしています。
- ⑥ りゆうをつけて、じぶんのかんがえをせつめいしています。
- ⑦ まなんだことをまとめたり、ふりかえったりして、あたらしく気(き)づくことがあります。(学校評価②)
- ⑧ うなずいたり、ともだちのかんがえとくらべたりしながらはなしあっています。
- ⑨ 友(とも)だちとはなしあうことで、「なるほど」と思(おも)ったり、よりよいかんがえに気(き)づいたりしています。(学校評価③)

